

「国際復興フォーラム 2019」について

2018年1月18日、兵庫県の神戸市において、内閣府や兵庫県、国際復興支援プラットフォーム（IRP）、アジア防災センター（ADRC）、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）の主催による「国際復興支援フォーラム 2019～Build Back Better（BBB）の効果を届ける～」が開催されました。

○開会

開会にあたり、ジョセフ・ライトマン IRP 運営委員会議長、小平内閣府大臣官房審議官、金澤兵庫県副知事が挨拶を行いました。

小平審議官は、「自分の命は自分で守る」という防災意識の高い社会を構築する住民主体の防災の重要性や、国土強靱化のための重要インフラの総点検といった「誰も取り残さない防災」を目指す我が国の最近の取組を紹介しつつ、世界のより多くの人々が連携することの必要性などを訴えました。

○特別講演

特別講演では、林防災科学技術研究所理事長が「阪神淡路大震災後の10年の取組を振り返る」と題した講演で、BBBには単なる物理的な都市の再建だけではなく、「経済を立て直すこと」と、「生活を立て直すこと」を合わせた3つのゴールがあり、発災直後からの時間軸においてはインフラ復旧の段階、経済及び都市の再建の段階、生活再建の段階と3層構造ではあるものの、別々に考えるのではなく、将来を見据えて同時に考えることが重要だと述べられました。

○パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「Build Back Betterの効果を届けるための戦略」と「包摂的な復興の実現」の2つのセッションが行われ、Build Back StrongやBuild Back Fastが重要な一方、経済再建や生活再建を見据えて、Fastだけでよいのかを考える必要があるといった議論が行われました。また、すべての人にBBBの効果を届けるためには、「人を中心とするアプローチ」が大切であり、コミュニティ内で話し合う場を持ち、文化的な観点を含めた議論が必要だと述べられました。

○総括及び閉会

結びに、UNISDRの新垣部長と内閣府の佐谷参事官から、1：気候変動や人道問題等の重要課題に対応するための組織間の垣根を越えた連携、2：BBBの重要

性を訴えるための科学的なエビデンス 3 : BBB の効果を届けるための戦略 4 : BBB に向けた多くの取り組みを復興の時間軸に合わせて実行していくこと、がポイントだとまとめられました。また、本フォーラムのような世界的なネットワークも重要であるとし、これまでに蓄積した知識を活用し、また 1 年かけて新たな知見を得ていこうと宣言し閉会しました。

○ジョセフ・ライトマン議長挨拶



○集合写真

